

イントラメールサーバー構築の試行

せたな町立若松小学校 佐々木 朗

1. はじめに

情報教育にいろいろ携わっていて、電子メールについて指導をしたいことがあります。以前はフリーメールなど、実勢にインターネットで使えるメールアドレスを使って指導していました。ところが、指導の手を離れて、それが一人歩きして、好ましくないことに利用される心配が脳裏をかすめます。

児童・生徒用に校内のみで動くメールサーバーはないものかと思っていました。そんな時、ウィズ98というフリーソフトを見つけました。

<http://www.vector.co.jp/soft/winnt/net/se237525.html>

検索ソフトなどでも、今回はこのソフトの設定の仕方、使い方をまとめています。

このソフトは、大野小学校のクラブの時間に授業として用い、また、若松小学校の5台のコンピュータにも入れてみました。(若松小では、授業での検証はまだしていません。)

2. ダウンロードと設定

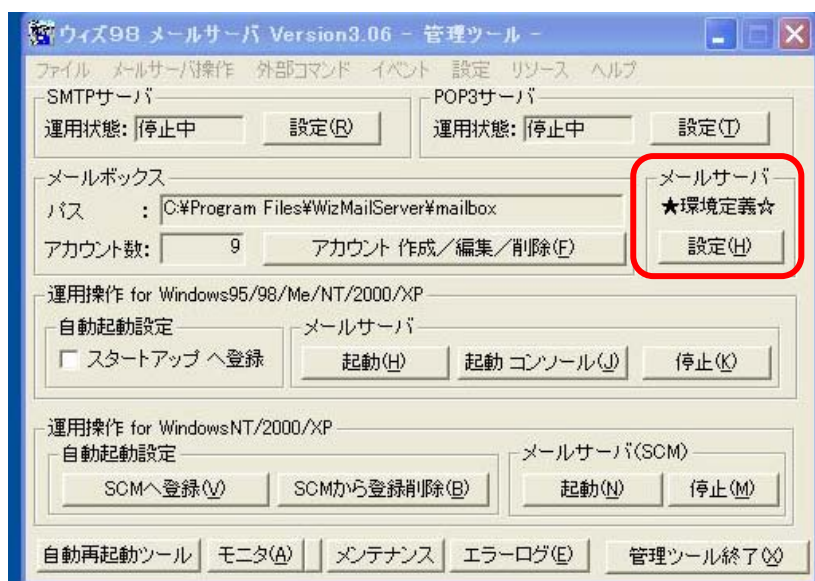
このフリーソフトは、メールアドレスの発行は独自のドメイン (@以降は学校名など) で無制限に発給でき、添付ファイルも可能です (アドレ

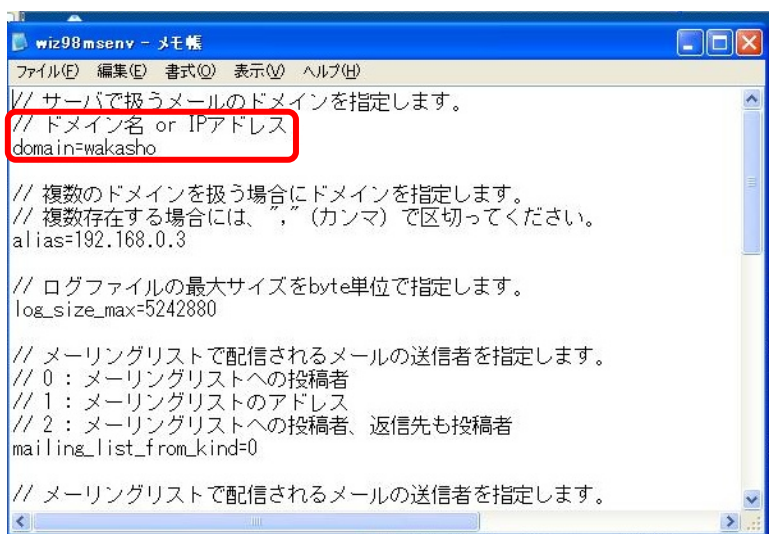
スに.com や.jp がつかない以外、全く普通のメールのやり方と同じです)。また、外へは一切出ませんので、外部との接触を心配することはありません。さらに、イントラということで、送受信が非常に速く、とても快適です。メールサーバーは先生機でもいいですし、イントラのどのコンピュータでもかまいません (当然ながら、運用する時は、メールサーバーのパソコンの電源が入っていることが前提です)。

それでは、設定の仕方についてふれていきます。前記のサイトよりダウンロードしてインストールします。デフォルトのままのインストールで大丈夫です。

インストールが終了するとデスクトップのアイコンをクリックすると、管理ツールの画面がされます。

最初に環境設定をします。

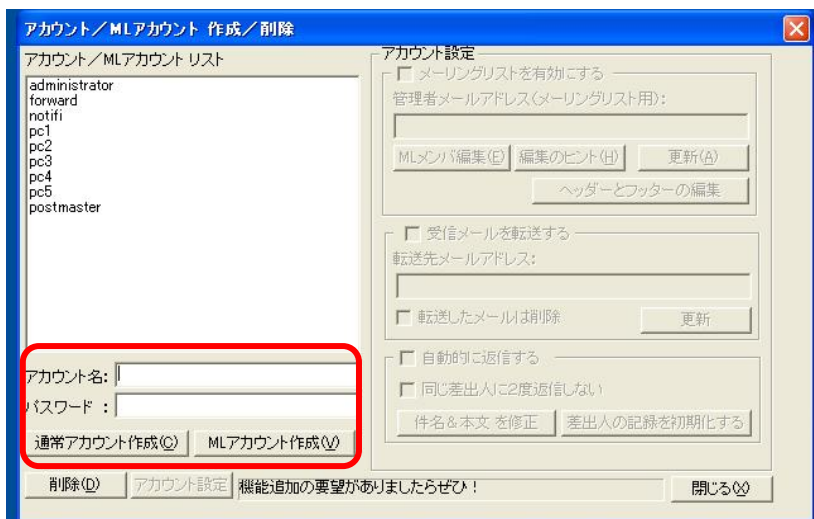




メールサーバー環境定義のところに設定がありますので、そこをクリックします。すると、メモ帳が立ち上がりますので、ドメインを設定します。学校の名前、ネットワークの名前などにすればいいでしょう。私の場合、domain を wakasho とし、そのまま上書き保存しました。

運用中と表示されればOKです。この画面は、閉じておいてかまいませんが、その前に、使っているパソコンのIPを知っておく必要があります。どうやって調べてもいいのですが、メニュー画面の「外部コマンド」をクリックすると、IPが出てきます（このページの下図）。ローカルエリアで

ネットワークが組みられているので、だいたい「192.168.***.***」という番号が表示されると思います。IPの自動取得でもかまいませんが、しばらくつくっていないうちにIPが変更になる可能性もありますので、固定IPの方が望ましいと思います。これでメールサーバーの設定は終了です。

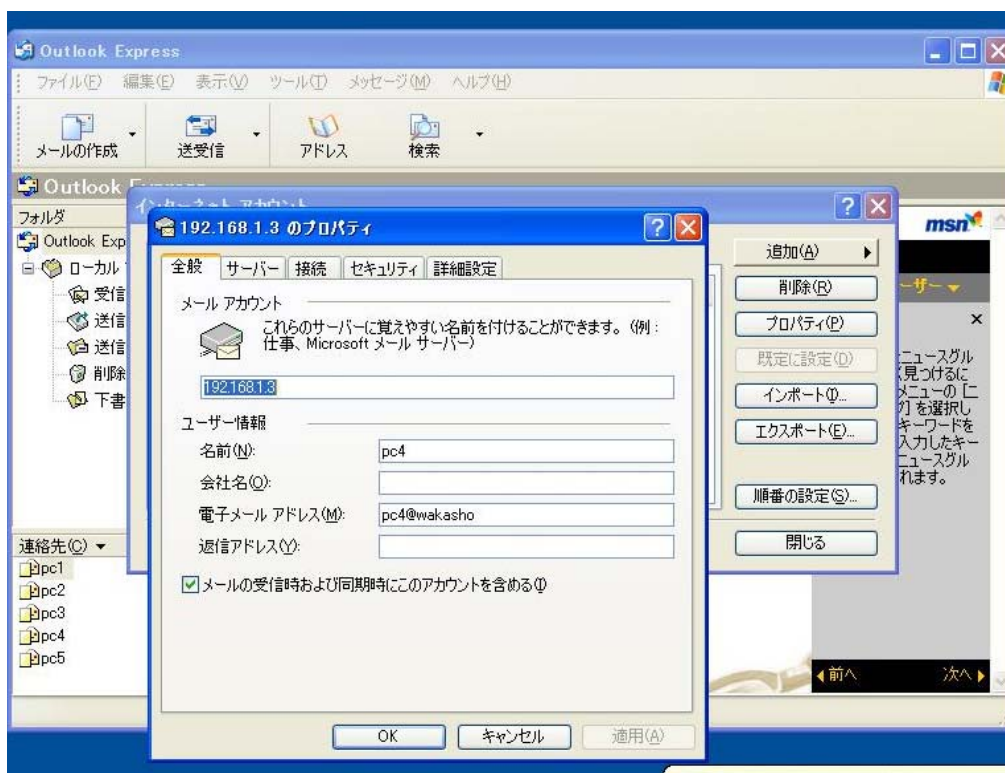


次にメールソフトの設定について説明します。学校ではおなじみのアウトLOOKエクスプレスをを使って設定しましたが、メールソフトは選ばないようです。

次にアカウントの設定です。私の場合PC1～PC5までのアカウントと適当にパスワードを登録しました。メールアドレスは、PC1@wakasho などということになります。

ここまできたら、メールサーバーを起動します。POP並びにSMTPサーバーが

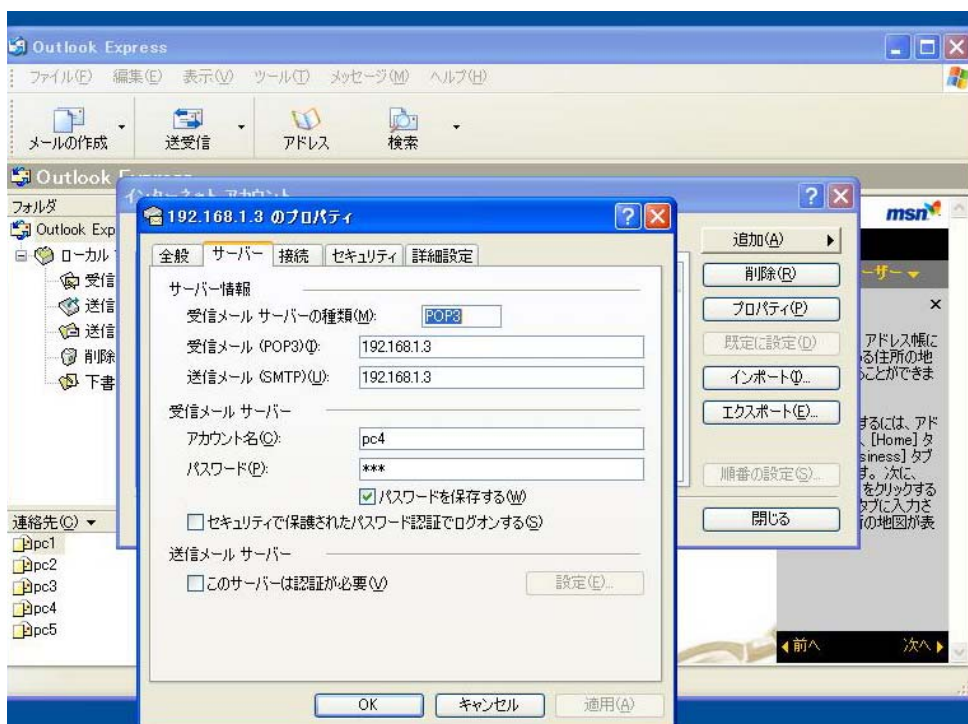




「アカウント」、「メール」、「追加」とクリックしていきます。左図の状態になります。最初にサーバー名で、何でも

アウトルックエクスプレスを立ち上げます。初めて立ち上げると、自動的にアカウント設定の画面が立ち上がりますが、それ以外ですと、以下ようになります。「ツール」、

いいのですが、IPにしました。私の場合「192.168.1.3」としました。次にユーザー情報です。名前に「pc4」（相手のパソコンに差出人として表示される名前）、電子メールアドレスを「pc4@wakasho」と入れます。



次にサーバー名を入れます。(左図)POPもSMTPもサーバーのIPアドレスを入れます。私の場合「192.168.1.3」と入れました。

受信メールサーバーのアカウントは「pc4」パスワードは、先ほど設定したものです。以上で、設定は終わりです。

3. 使い方

約束として、メールサーバーになるパソコンは必ず立ち上げておくこと。そして、運用中にすることです。

メールの送り方、受け方についての詳しい説明は省きますが、通常のメールと全く同じ使い方です。違うのは速度。重たい添付ファイルがあっても、気持ち良いほどのスピードで、送受信できます。さすがインターネットです。また、アドレス帳に台数分のアドレスを入れておくと重宝すると思います。

4. 活用方法

若松小学校の実践は、まだしておりませんが、前にいた大野小学校では、クラブ活動の時間に、「電子メールの使い方」ということで、指導しました。

この時は、簡単なメールの仕組み、受信の方法、相手を選んで、また、一斉の送信、添付ファイルなどを指導しました。また、メールの危険性、モラルについても指導しました。私からは、なぞなぞを出して、子供たちはその答えを返信したり、友達同士やりとりしたりしていました。今でも覚えているのが、何回かの授業の後慣れてきた頃、サーバーで架空のアドレスを作成して、子どもたちにBCCで、「佐々木先生って、きもいよね。」みたいなメールを飛ばしたとばした時でした。送受信をしたある子が「先生、へんなメール来てるよ。」って教えてく

れました。他の子も送受信してみると、「ぼくにも」、「私にも」、という声があちこちで聞かれました。「どんなメールなの。」と、とぼけて一人の子のパソコンの画面を見て、「ひどいなあ。」とつぶやきました。「誰だろう pc42 って。」と送った犯人捜しが始まりました。でも実は 42 なんてパソコンはありません。ざわざわしている時に、私が、「実は、みんな。だましてごめんね。これ、先生機から送ったんだよ。」と言って事情を話しました。電子メールの怖さと匿名性をふれたかったのです。子どもたちにとっては、ちょっときつかったかもしれないけれど、たぶん心にとどまったと思います。

5. 最後に

今では、教育委員会からの文書の多くが電子メールで来て、そのメールで回答する時代になっています。

その一方、先生方に電子メールが日常の仕事道具として定着しているか言えば、まだまだだとも感じます。メールは携帯というのが現段階の文化であるとも思います。また、一方では、中学生が自由にケータイを操り、情報社会の影の部分に足を陥れることも珍しくない世の中になってきました。そんな中、私は小学生にも「電子メールとは何か。」という基本的なことは指導していかなければならないと思います。

パソコンを使った電子メールのやりとりは、とても便利ですし、手軽にできます。先生方も研修して、その操作の基本を習得すると共に、児童・生徒にも正しい使い方を指導していただければと思います。